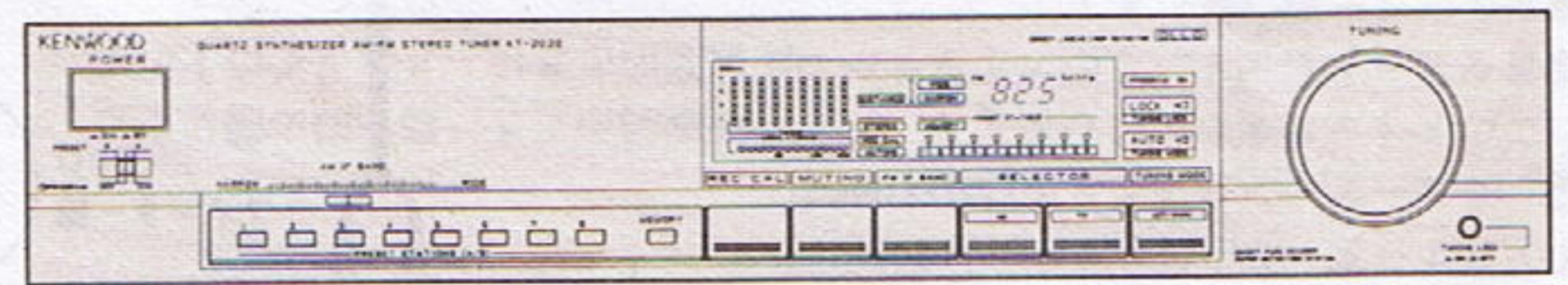


クォーツ シンセサイザー
AM-FM ステレオ チューナー

KT-2020

取扱説明書



KENWOOD

お買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用に際し、本機の性能を十分に発揮させるため、本説明書を最後までお読みいただき、正しい使いかたにより末永くご愛用ください。

なお、本製品は厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴い破損等の不具合がありましたら、お早めに購入店、または最寄りのトリオ各営業所、サービスセンターへお申しつけください。

アフターサービスについて

- 保証書**—この商品の保証書は別途添付してあります。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
- 保証期間**—お買上げの日より**1年間**です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはトリオの営業所が**無料修理**いたします。
- 保証期間経過後の修理**についてはお買上げの販売店またはトリオの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により**有料修理**いたします。
- 本機の**補修用性能部品の最低保有期間**は製造打切り後**8年間**です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
- なおアフターサービスについて、ご不明な点はお買上げの販売店またはトリオの営業所にご遠慮なくご相談ください。

※ ダンボール箱は、アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するために、是非保管しご利用ください。

付属品について

本機には、下記の部品が付属されていますのでご確認ください。

T型 FM アンテナ	1本
両ピンコード	1本
75Ω/300Ωアンテナアダプター	1個
AM ループアンテナ	1個

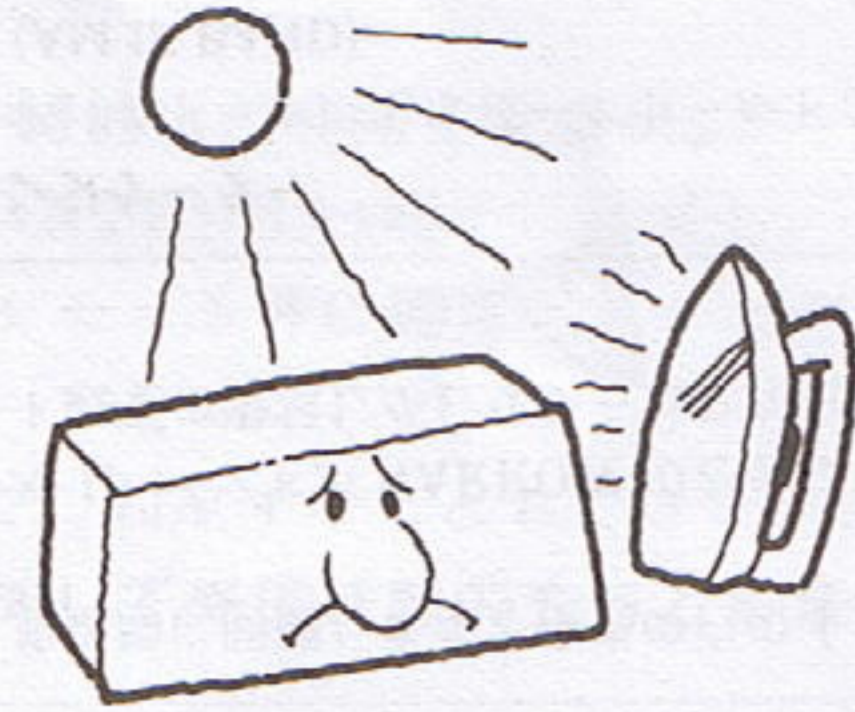
目次

ご使用の前に	2
定格	3
接続のしかた	4
外部アンテナについて	5
各部の名称と動作説明	6
操作のしかた	7
故障と思われる症状ですが	8

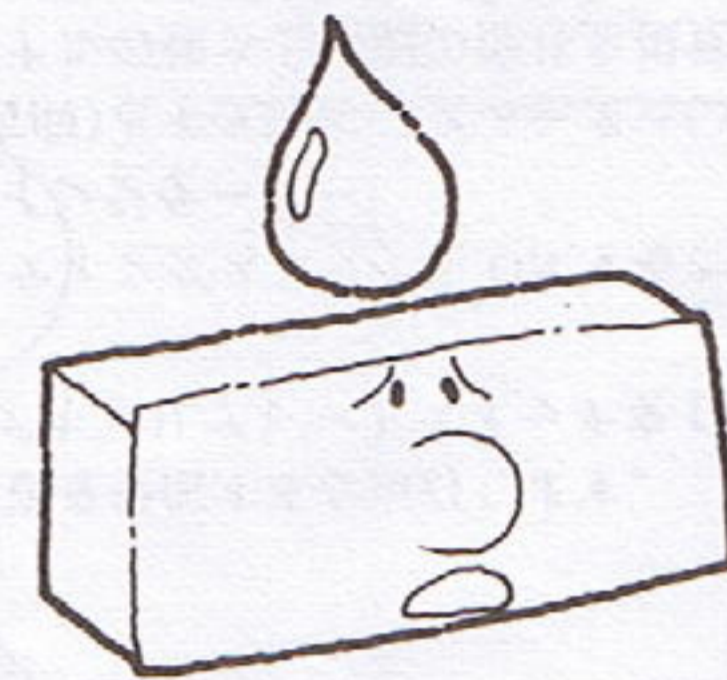
ご使用の前に

設置上のご注意

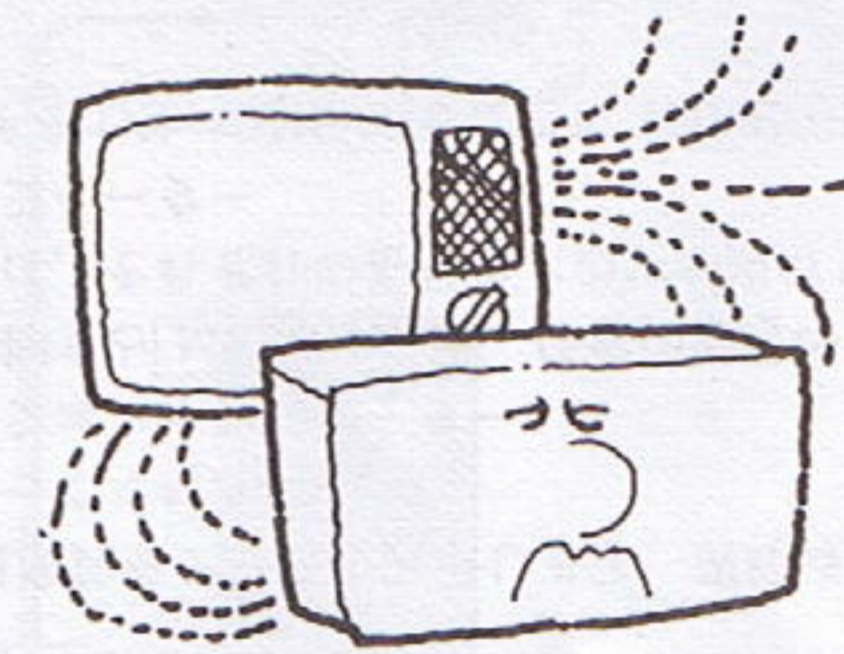
直射日光の当る所、暖房器具など発熱物の近くはさけてください。



花瓶、化粧品など水の入ったものは、セットの上に置かないでください。また、湿気の多い所はさけてください。

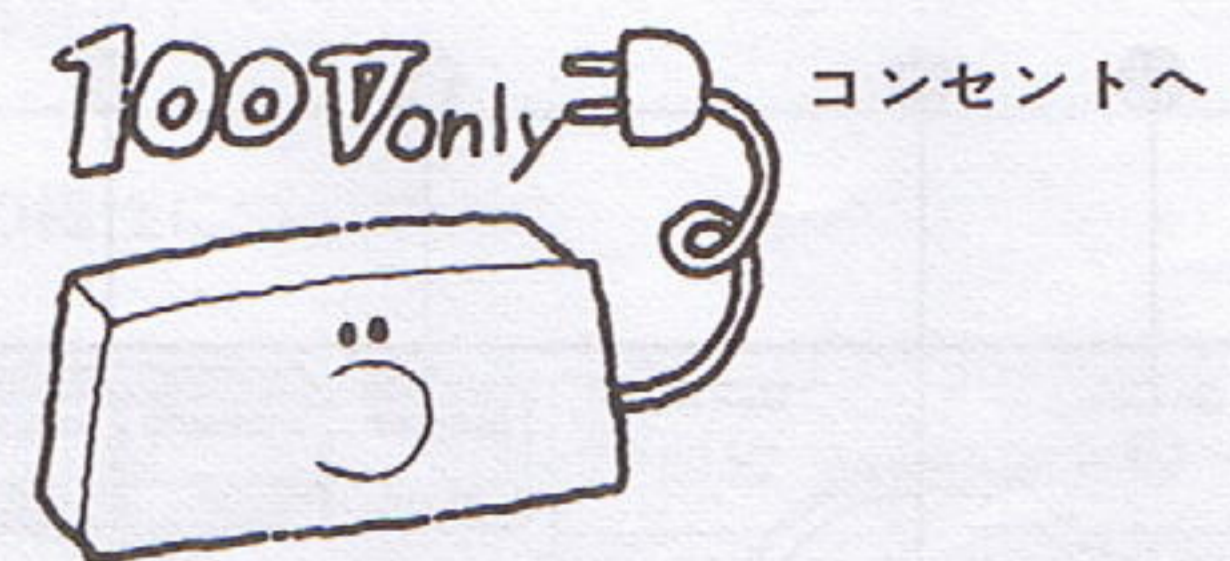


雑音をできるだけ少なくするために、テレビの近くや磁力の発生するものからは遠ざけてください。

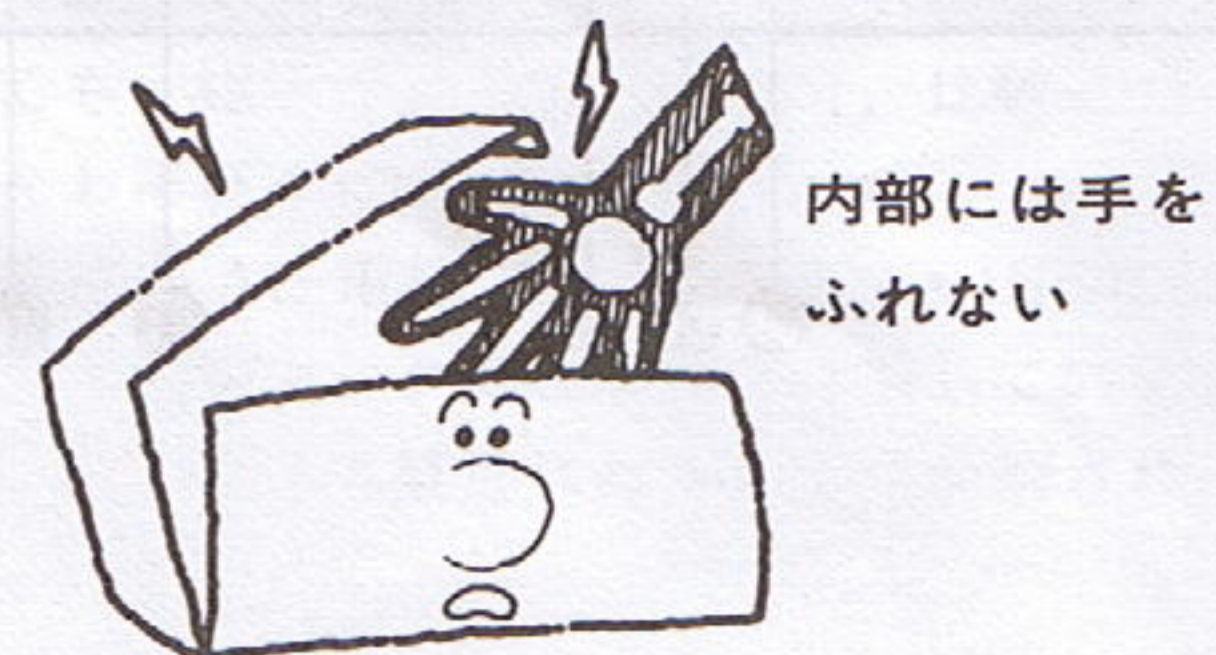


安全にお使いいただくために

本機は、交流100V専用です。クーラーなど三相200Vでは使えません。



ケースなどをはずし、内部にふれることはさけてください。内部に手を入れると感電、故障の原因となることがあります。



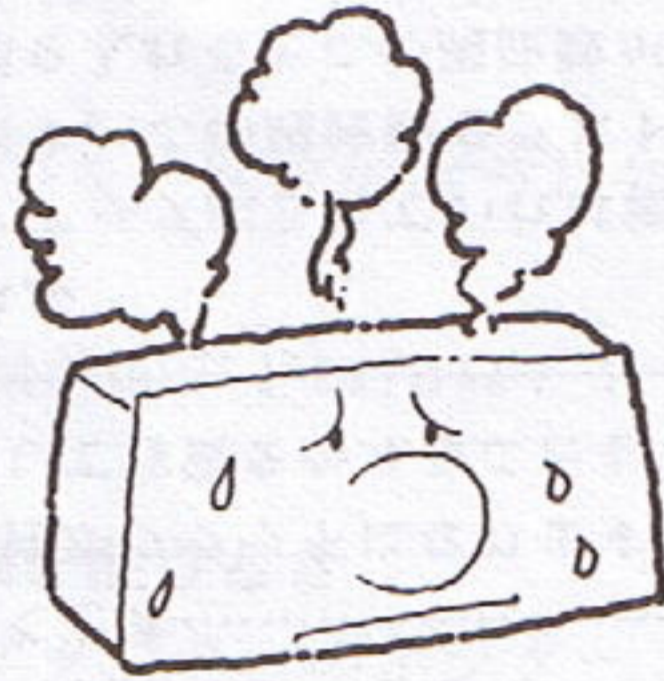
セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、シリコンクロスかやわらかい布でからぶきします。シンナー、ベンジンなどの使用は変色の原因になることがあります。



異常にお気づきの際は

煙がでている、変な匂いがするなどのときは、電源スイッチをすばやく OFF にして電源コードを抜いてください。そのうえで速かに購入店または最寄りのトリオサービスセンター、営業所へご連絡ください。



ステレオ音のエチケット

良い音、楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

定 格

これらの定格およびデザインは、開発に伴い、予告なく変更になることがあります。

[FM チューナー部]

受信周波数範囲	76MHz~90MHz
アンテナインピーダンス	75Ω 不平衡
感度 (IHF) 75Ω	0.95μV/10.8dBf
SN比 50dB 感度 MONO	1.8μV, 16.2dBf
STEREO	22μV, 38.1dBf
高調波ひずみ率(100%変調)	
MONO 100Hz	0.007%(WIDE), 0.05%(NARROW)
1kHz	0.005%(WIDE), 0.04%(NARROW)
50Hz~10kHz	0.01%(WIDE), 0.1%(NARROW)
STEREO 100Hz	0.01%(WIDE), 0.06%(NARROW)
1kHz	0.008%(WIDE), 0.05%(NARROW)
50Hz~10kHz	0.03%(WIDE), 0.3%(NARROW)
SN比(100%変調) MONO	99dB
STEREO	91dB
キャプチャーレシオ	1.0dB(WIDE), 2.5dB(NARROW)
実効選択度(IHF: ±400kHz)	70dB(WIDE), 100dB(NARROW)
ステレオセパレーション	
1kHz	70dB(WIDE), 55dB(NARROW)
50Hz~10kHz	55dB(WIDE), 45dB(NARROW)
15kHz	45dB(WIDE), 40dB(NARROW)
周波数特性	20Hz~15kHz, ±0.5dB
イメージ妨害比(84MHz)	95dB
IF 妨害比(84MHz)	110dB
スプリアス妨害比(84MHz)	100dB
AM 抑圧比(65.2dBf)	70dB
サブキャリア抑圧比	70dB
出力レベルおよび出力インピーダンス	
FM 1kHz, 100%変調 固定出力	0.6V, 1.7kΩ

[AM チューナー部]

受信周波数範囲	522kHz~1629kHz
感度	10μV; 250μV/m
SN比(30%変調, 1mV 入力)	55dB
高調波ひずみ率(1,000kHz)	0.3%(WIDE), 0.6%(NARROW)
イメージ妨害比(1,000kHz)	40dB
IF 妨害比(1,000kHz)	60dB
選択度(IHF)	30dB(WIDE), 50dB(NARROW)
出力レベルおよびインピーダンス(400Hz, 30%変調)	0.12V, 1.7kΩ

[電源部・その他]

電源電圧・電源周波数	AC 100V, 50/60Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示)	14W
寸法	幅 440×高さ 88×奥行 331(mm) (突起部含む)
重量	正味 4.5kg
メモリーバックアップ保証時間	7日(168時間)

接続のしかた

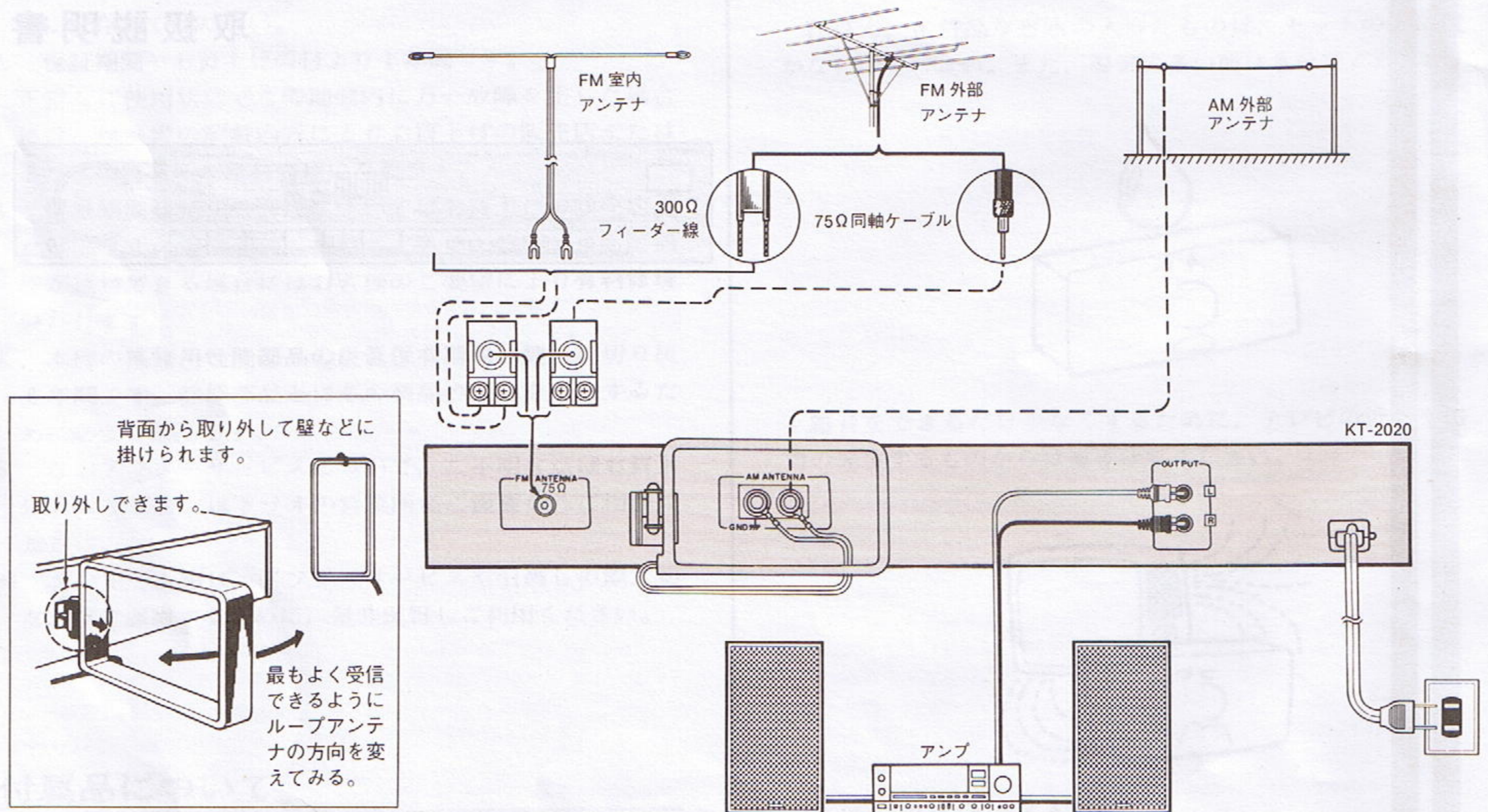
アンテナを取付けましょう

T型 FM アンテナ： アンテナアダプターのネジターミナル部にT型アンテナのYラグ部を接続し、FM アンテナ(FM ANTENNA)端子にアダプターを差込みます。

T型アンテナは FM 専用外部アンテナを設置するまでの間、一時的にご利用ください。

AM ループアンテナ： ループアンテナのリード線のYラグ部を AM アンテナ(AM ANTENNA)端子に接続し、アンテナホルダーにループアンテナを押し込みます。また、ループアンテナをセット外に固定したいときは、ホルダーごとはずし(ホルダーを軽く上方向に押せば、はずれます)、シールをはがして、ホルダーを壁などに固定してください。さらにホルダー中央の穴を通して、木ネジなどで、固定することもできます。

ループアンテナのリード線が不足するときは、リード線を追加して受信状態のもっとも良い場所に設置してください。



アンプに接続しましょう

本機の出力(OUT PUT)端子とアンプの入力(TUNER)端子を、付属の両ピンコードで接続します。端子にはL(左)チャンネルとR(右)チャンネルがあります。必ず同じチャンネルにつないでください(上図参照)。

十分充電後は、電源コードを抜いても7日以上数日間はメモリーバックアップをしています。

AC 電源の極性について

本機の AC 電源コードの片側には、白線マークが施されています。当社の、他の白線マーク入りコードを使用した機器をご使用の際は、このマークの側を統一しますと音質向上の一助となります。

AC 電源コンセントへの差込みは、白線マーク側をコンセント差込み口の短い方に合わせるのが一般的ですが、接続される機器によっても、AC ラインの状態によっても一様ではありませんので、比較試聴のうえ良い方をお選びください。

当社製品の AC 電源コンセントの(●)印は、AC 電源コードの白線マーク側と同じ極を示しています。

なお、従来通りに極性にとらわれず接続されても結構です。

外部アンテナについて

FM 外部アンテナ

チューナーで一番大切なのは希望の電波を確実に十分キャッチすることです。そのためにはFM専用外部アンテナを必ずご使用ください。

電波が十分強くても、ビルの谷間や山に囲まれた地域では反射波で音が歪んだり、ステレオのセパレーションが悪くなります。このようなときはアンテナの指向性のするどい2素子位相差給電アンテナをご使用ください。

また、放送局から遠く電波が弱い地域では電界強度に応じて3素子、5素子、7素子のアンテナを選んでください。素子数が増せば利得が高くなり、指向性もするどくなります。

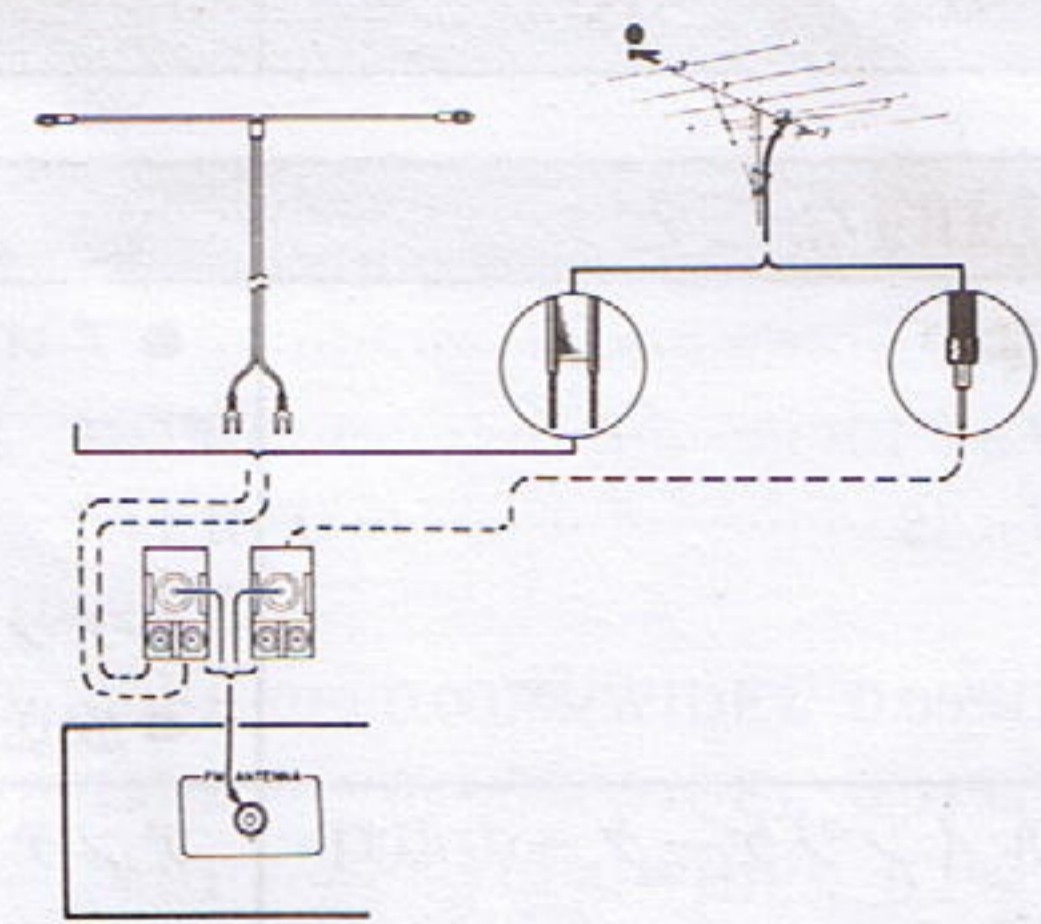


図1 FM専用外部アンテナの接続

アンテナとチューナーの接続

アンテナ端子にFMアンテナを接続するには、75Ω同軸ケーブルか300Ωフィーダー線を使います。本機の性能をフルに発揮させるためには、75Ω同軸ケーブル(3C-2Vか5C-2V)をおすすめします。

75Ω同軸ケーブルを使うとき

1. 付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターのフタをあけます。(図2参照)。
2. 75Ω同軸ケーブルを、図3のように処理し、アダプターに取付けます(図3参照)。
3. アダプターを本機背面のFM75Ωアンテナ端子に差込みます。

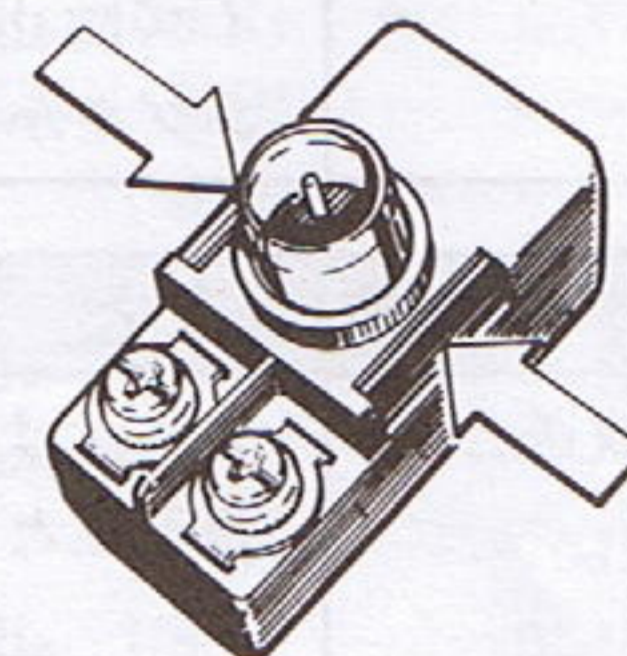
300Ωフィーダー線を使うとき

付属のアンテナアダプターのネジターミナル部に、外部アンテナからの300Ωフィーダー線を接続し、FM75Ωアンテナ端子に差込みます(アダプターには300Ω↔75Ωの変換器が入っています)(4ページ接続図参照)。

FM専用外部アンテナをたてる時

FM雑音の中で、悩みの多いものにイグニッションノイズ(自動車のエンジンよりでる雑音)があります。この雑音をさけるために、アンテナを道路からできるだけ離れた所にたててください。

送信アンテナからごく近い所でFM外部アンテナをたてますと、電波が強すぎて音がひずむことがあります。これは故障ではありません。アンテナを室内アンテナにかえるか、または、お近くのトリオ営業所にご相談ください。



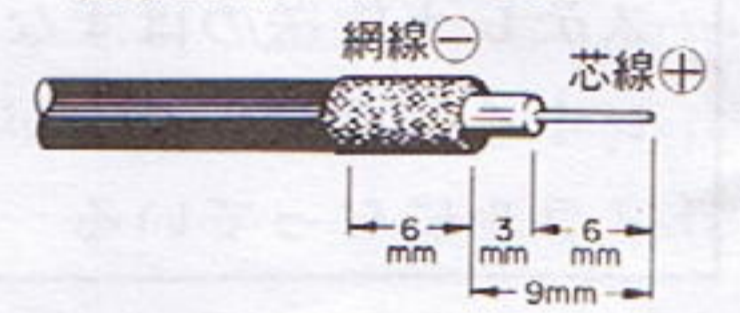
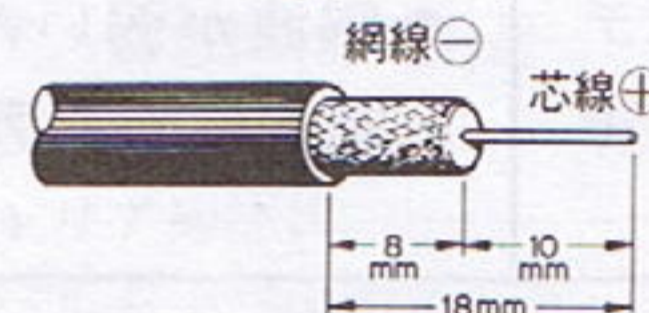
矢印の方向に両側から指で軽く押してロックをはずし、手前にひけば、あけられます。

図2 75Ω/300Ωアンテナアダプターのあけかた

1. 同軸ケーブルを図のように加工します。

5C-2Vの場合は外被をむいて芯線を出す。

3C-2Vの場合は外被をむいて網線を外被に折りかえす。



2. 加工した同軸ケーブルを、下図のように付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターに取付けます。5C-2Vはピンのすき間の広い部分に巻きつけます。3C-2Vはさらに狭い部分まで挿入して巻きつけます。右上のリングをふたの突起にはめかえてください。

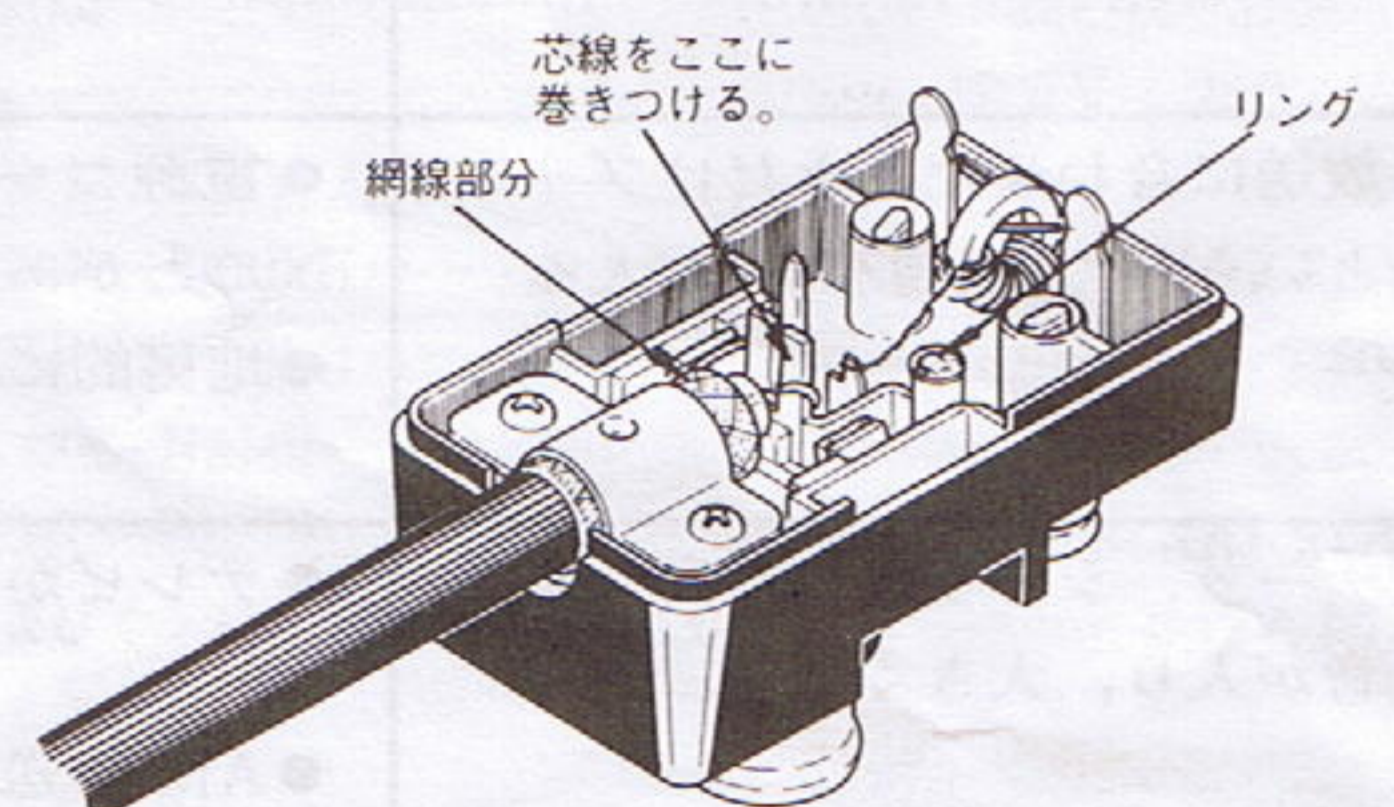


図3 付属のアダプターと同軸ケーブルの接続

AM 外部アンテナ

AM リードアンテナ

鉄筋住宅の場合などでループアンテナを接続しても、受信状態が悪いときは、AMアンテナ端子にビニール被覆線を6~15m屋外にはってください。このとき必ずループアンテナも接続したままにしておきます(図4)。

アースの接続

アースは、アース(GND)端子につなぎます。アースはしなくとも放送受信はできますが、雑音除去と安全性などの点から接続されることをおすすめします。但し、ガス管には、絶対に接続しないでください。

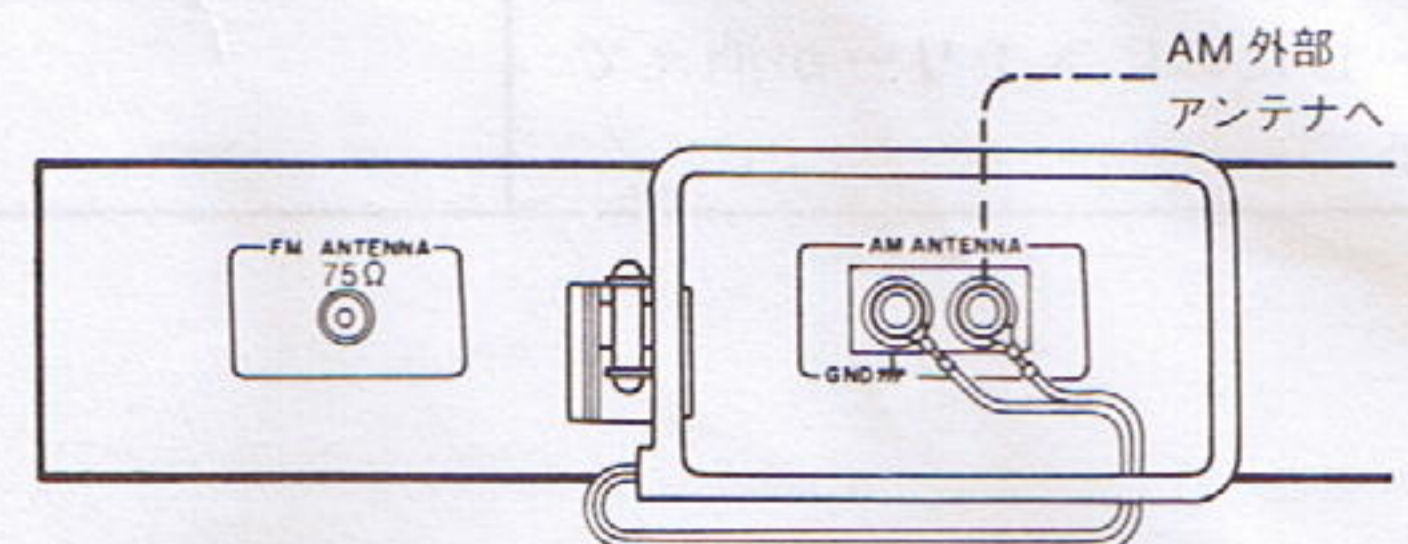
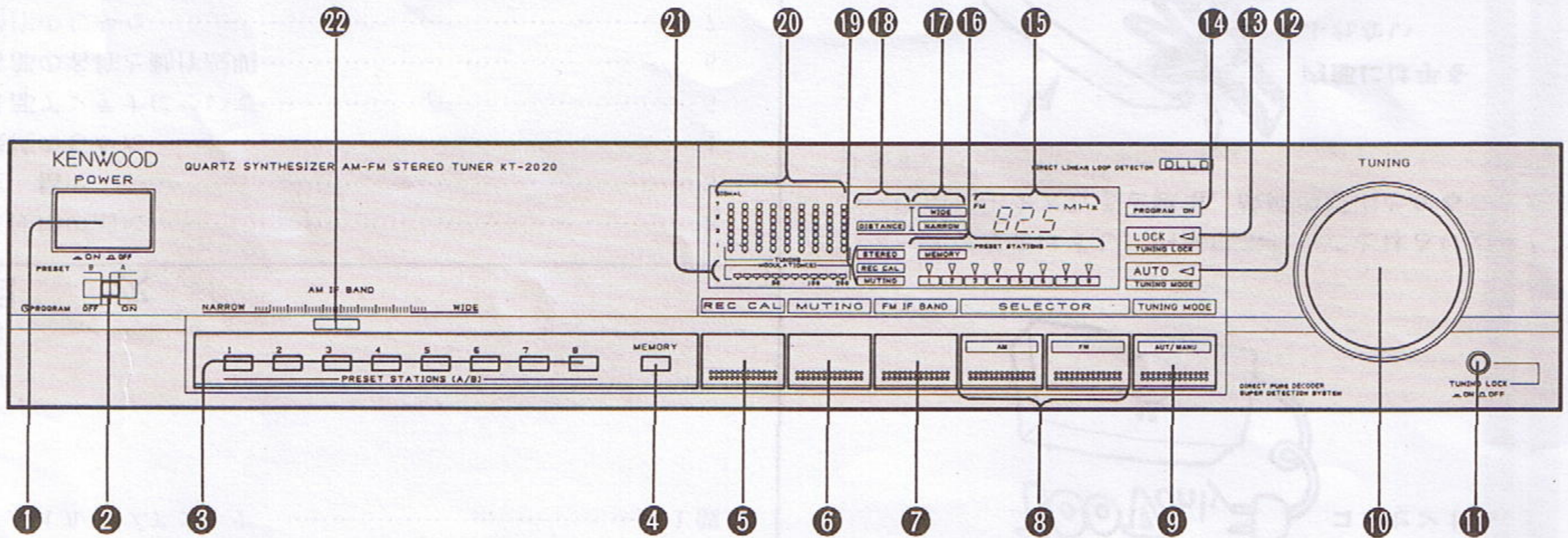


図4 AMリードアンテナの設置

各部の名称と動作説明



① 電源スイッチ(POWER)

押すごとに電源が入ったり、切れたりします。

② プリセット/プログラムスイッチ(PRESET/PROGRAM)

プリセットとプログラムの両方の機能のためのスイッチで、3段階に切り換わります。

左側(PRESET B・PROGRAM OFF)：B側8局を受信できます。PROGRAMはOFFの状態です。

中央(PRESET A・PROGRAM OFF)：A側8局を受信できます。PROGRAMはOFFの状態です。

右側(PRESET A・PROGRAM ON)：PROGRAMがONになり、電源を切る直前に受信していた局とCH-8にメモリーされた局を呼び出します。プログラムタイマーと組み合わせると異なる放送局の留守録音が可能です。

③ プリセットステーションスイッチ(PRESET STATION(A/B))

A側、B側それぞれのスイッチに1局ずつFM局又はAM局を記憶させることができます。スイッチを押すとプリセットステーションインジケータが点灯し、周波数カウンターにこのスイッチに記憶させた周波数が表示されます。

④ メモリースイッチ(MEMORY)

このスイッチを押すとメモリーインジケータが点灯し、プリセットステーションスイッチへのメモリースタンバイ状態になります。

⑤ レコーディングキャリプレートスイッチ(REC CAL)

FM放送を録音するとき、テープデッキの録音レベルを設定するのに使うスイッチです。レベル設定が済んだとき、録音をしないときは、このスイッチを必ずOFFにしてください。スイッチがON状態のときに、REC CALインジケータが点灯します。

⑥ ミューティングスイッチ(MUTING)

このスイッチをONにしますと、FM放送選局のとき、局と局の間で雑音をカットします。このスイッチがON状態のときに、スイッチの上のインジケータが点灯します。

⑦ FM IFバンドスイッチ(FM IF BAND)

FM放送を受信する際、このスイッチをON・OFFするごとに中間周波数の信号の通過帯域をWIDE(広帯域)とNARROW(狭帯域)に切替えることができます。

WIDE：通常は、この位置にしておきます。歪の少ない良質の音を受信することができます。

NARROW：隣接局の妨害がはげしく、放送がききとりにくいときの位置。選択度特性がよくなり、妨害の少ない受信状態となります。

⑧ セレクタースイッチ(SELECTOR)

FM：FM放送を受信するときに押します。

AM：AM放送を受信するときに押します。

⑨ モードスイッチ(TUNING MODE AUTO/MANU)

押すごとにオートインジケータ(AUTO)が点灯したり消えたりします。

AUTO点灯：オート選局状態となります。

AUTO消灯：マニュアル選局状態となります。

⑩ 選局つまみ

AM、FM放送を選局するつまみです。AUTOモードのときに、このつまみを少し右に回すと周波数が上昇し、左に回すと下降します。

MANUALモードのときは、チューニングシグナルインジケータ(SIGNAL)をみながら、このつまみを回して希望の放送局の周波数を受信します。

⑪ ロックスイッチ(TUNING LOCK)

現在受信している周波数を固定するために使います。このスイッチがONされているときは、選曲つまみを回しても周波数は変わりません。

⑫ チューニングモードオートインジケータ

モードスイッチがAUTOのとき点灯します。

⑬ チューニングロックインジケータ

ロックスイッチがONのとき点灯します。

⑭ プログラムインジケータ

プログラムスイッチがONのとき点灯します。

⑮ 周波数カウンター

AMまたはFMの周波数をデジタル表示します。選局時にはこの表示を見ながら正確な同調をとってください。

⑯ プリセットステーションインジケータ

メモリースイッチを押すとMEMORYが、任意の番号のプリセットステーションスイッチを押せば、それぞれの番号の上のマが点灯します。

⑰ FM IFバンドインジケータ

FM IFバンドスイッチをON・OFFするごとにWIDE・NARROWが交互に点灯します。

ご注意：

AM放送受信時には点灯しません。

⑱ ディスタンスインジケータ

このインジケータは常に点灯しています。(高感受信機としてご使用ください。)

⑲ 各種インジケータ

STEREO：FMステレオ放送を受信すると点灯します。

REC CAL：レコーディングキャリプレートスイッチをONすると点灯します。

MUTING：FM時にミューティングスイッチをONすると点灯します。

⑳ チューニングシグナルインジケータ

シグナルメータ(タテ方向)とチューニングメータ(ヨコ方向)の組合せによって、同調前後のシグナルの強さと同調の推移を視覚的にわかりやすく把握することができます。同調に近づくに従って端から順に赤色で点灯、同時にシグナルの強さに従って点灯するポイント数が増えていきます。同調時には、中心の上下方向にシグナルの強さに応じたポイント数が、白色で点灯します。

離調するときは、逆の推移をたどって、赤色のポイントが減少していきます。

ご注意：

1. AM放送受信時は、放送局に同調しますと中央の白のインジケータが点灯します。

2. 電界が不十分のときやIFバンドがNARROWのときなどは、左側と右側のステップが4ポイント以下の表示しかなかったり左右非対称に表示されることがあります。

㉑ モジュレーションインジケータ

変調度を点灯表示します。7ドット以上はピークホールドされます。

㉒ AM IFバンドつまみ(AM IF BAND)

AM放送を受信する際、復調帯域を広帯域(WIDE)から狭帯域(NARROW)まで連続的に可変できます。

WIDE：混信のない地域での通常的位置です。低ひずみで、より音質のよい放送を受信することができます。

NARROW：プリエンファシスされた放送局を受信する場合や、混信がある場合の位置です。選択度特性がよくなり、混信のない受信ができます。

操作のしかた

オート選局のしかた

- ①アンプの入力セレクターが TUNER になっていることを確かめてください。
- ②電源スイッチ(POWER)を押します。
周波数ディスプレイが点灯し、ラストチャンネル^{*}が表示されます。
- ③AM 放送を聞くときはセレクタースイッチ(SELECTOR)の AM を押します。
周波数ディスプレイが AM 表示になり、ラストチャンネルが表示されます。
FM 放送を聞くときはセレクタースイッチ(SELECTOR)の FM を押します。
周波数ディスプレイが FM 表示され、ラストチャンネルが表示されます。
- ④チューニングモードスイッチ(AUTO/MANU)で、オートインジケータ(AUTO)を点灯させます。
- ⑤周波数の高い局を選ぶときは、選局つまみ(TUNING)を少し右に回します。低い局のときには左に回します。周波数を自動的に走査して、放送局のある周波数で停止します。シグナルインジケータ(SIGNAL)が点灯し、放送が受信されます。
- ⑥音量と音質調整はアンプで行ってください。

FM・IFバンドについて

電波の弱い FM 局を受信するときは、FM IF バンド スイッチを NARROW にしてください。

AM・IFバンドについて

現在、AM 放送はプリエンファシスをかけている局とそうでない局がありますが、本機では、AM・IF バンドつまみの連続可変で次のように対応できます。

- プリエンファシス放送をきくとき…………… NARROW 側
 - 普通の放送をきくとき…………… WIDE 側
- にすると周波数特性がフラットになります。実際に放送を受信し、このつまみを調節して音質をかえることもできます。

※ラストチャンネル

メモリーバックアップがされていれば電源を切る寸前の周波数が記憶されます。この周波数をラストチャンネル周波数と呼び、再度電源を入れるとこの周波数が表示されます。

マニュアル選局のしかた

オート選局では選局できない電波の弱い局、または放送局の周波数がわかっている局を受信したいときは、マニュアル選局をしてください(AM, FM 両方で可能です)。

- ①“オート選局のしかた”の①～③項を行います。
- ②チューニングモードスイッチ(AUTO/MANU)でオートインジケータ(AUTO)を消灯させます。オートインジケータ(AUTO)が消えるとマニュアル選局となります。
- ③選局つまみ(TUNING)を調節して、希望の放送局を受信します。

プリセットメモリーのしかた

- ①放送局を受信します。
- ②メモリースイッチを押します。
→メモリーインジケータが点灯(約 13 秒)。
- ③メモリーインジケータが点灯している間に任意のステーションスイッチを押します。
→メモリーインジケータが消え、ステーションインジケータが点灯し記憶完了。
ステーションスイッチにお好みの放送局の周波数をメモリーすれば、いつでも聞きたい局をステーションスイッチを押すだけで選局できます。

プログラム受信のしかた

プログラムタイマーと本機を接続して電源を切る直前に受信していた局(A側あるいはB側)とA側1つの合計2局を受信することができます。 FM, AM 両局で可能です。

1. 本機に電源が通電するように、プログラムタイマーを操作します。
2. 本機の電源を入れ受信状態にします。
3. プログラムスイッチを OFF 状態にします(プログラムインジケータが消灯していることを確認してください)。
4. 2 番目に受信したい局の周波数を PRESET STATION A の CH-8 のステーションスイッチにプリセットしてください。
5. 最初に受信したい局をマニュアル操作またはプリセットチューニングで受信してください。
6. プログラムスイッチを ON 状態にしてください(プログラムインジケータが点灯)。
7. 本機へ2度通電するようにプログラムタイマーをセットしてください。
8. 最初に本機へ通電されたときに、5 で受信した局が受信されます。2度目に通電されたときは、4 でプリセットされた局が受信されます。

ご注意：

1. プログラム受信の操作をしないときは、プログラムインジケータが消灯していることを確認してください。プログラムインジケータが点灯していますと、電源を入れるたびに PRESET STATION A の CH-8 に記憶されている局が受信されます。
2. プログラム受信をする場合は、本機に30分程度通電し、十分充電してからタイマーに接続してください。7日以上数日間、メモリーバックアップしています。
長期間電源を OFF にしていたのち、電源を ON すると、ディスプレイに間違った数値が表示されることがありますが、選局動作を行えば正しい表示になります。

レコーディングキャリプレートスイッチについて

FM 放送を良質な音で録音するには、適切な録音レベルの設定が必要です。FM 放送は、常に出力レベルが変動するため録音レベルの設定が困難です。本機では、レコーディングキャリプレートスイッチを ON にしますと、約 400Hz の信号(FM50%変調に相当するレベル)が連続的に OUTPUT 端子に出てきます。この出力レベルで、テープデッキの VU メーターを -6dB、または 50%に合わせておけば適正レベルの録音ができます。

また、録音テープは多少のオーバー入力は許容しますので、録音レベルを高めに設定したい場合は、プログラムソースで経験的に適正録音レベルを決定し、そのレベルをこの基準レベル信号を用いて確認しておきます。次回以降からの録音レベル設定に用いると便利です。

なお、モジュレーションインジケータと併用するとさらに適正な録音レベルの設定ができます。

故障と思われる症状ですが

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

症 状	原 因	処 置
-----	-----	-----

一般的なこと		
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● アンテナをつないでいない ● アンプとの接続 ● 放送局を受信していない 	<ul style="list-style-type: none"> ● AM用はループアンテナ ● FM用は外部アンテナ またはT型アンテナ ● 両ピンコードで必ずアンプと接続する ● 放送局の周波数に合わせる
シグナルインジケータの点灯が不安定	アンテナの接続が不確実	断線、接触不良のチェック
スイッチを操作すると、一時音がとぎれる	スイッチの切替えによるショックノイズ防止のため一時的にミュートングをかけている	故障ではありません

FM 受信時に起りやすいこと		
ザーツという連続音が放送とともに入る。	アンテナに入ってくる電波が弱く入力不足となっている	FM アンテナの見直し、また放送局から遠距離にあるところではFM 専用外部アンテナ(5～8素子)が必要です
バリバリ、ガリガリという雑音が入る	自動車などのイグニッションノイズ	アンテナを道路から離して設置し、接続コードは300Ωリボンフィーダー線よりも75Ω同軸ケーブルを使用する
ステレオ放送のはずなのにステレオインジケータがつかずモノラルになっている	● 電波が弱いためチューナー側で強制的にモノラルにしている	● FM 専用外部アンテナを屋外に設置し、電波を十分キャッチする

AM 受信時に起りやすいこと		
ジーツという連続音が入る。特に夜間大きい	電気器具(蛍光灯など)による雑音や空電という雑音がアンテナから入る	屋外にAM リードアンテナを設置し、アースを取れば減少しますが、完全にとり除くことはむずかしい
放送に合わせたときだけブーンというハム(同調ハム)が入る	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源コードの差し込み方向ででることがある ● 地区的にでることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源コードの差し込みをかえてみる ● 交流電源の使用時には特定の局にハムがでるのはやむをえません
チーツ、シーツという高い連続音が入り、大きくなる	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビから出る雑音 ● AM 放送局同志の干渉による9kHzのビート音 	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビを消してみる(近所のテレビの影響を受けていることもある) ● AM 放送方式の欠点で取り除けません

シンセサイザーチューナーで起りやすいこと		
ステーションスイッチを押しても受信しない	放送局の周波数をメモリーしていない	放送局の周波数を確認、確実にメモリーする
ステーションスイッチにメモリーしたのにメモリーが消えている	● 充電時間が充分でない	30分以上本機の通電をする

■アフターサービスのお問合せは、購入店または最寄りの当社サービスセンター、営業所をご利用ください。
 その他商品に関するお問合せは、お客様相談室をご利用ください。 電話 (03) 486-5515

トリオ株式会社

本 社 東京都渋谷区渋谷2-17-5 シオノギ渋谷ビル 〒150 電話 (03) 486-5511